

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	編集後記
別タイトル	EDITORIAL POSTSCRIPT
公開者	東邦大学医学会
発行日	2013.03
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 60(2). p.134 134.
資料種別	その他
著者版フラグ	publisher
メタデータのURL	https://mylibrary.toho u.ac.jp/webopac/TD00789016

第 60 巻の広告掲載会社名および商品名

アステラス製薬 (株)	ミカムロ/ミカルデイス	中外製薬 (株)	ミルセラ
第一三共 (株)	ネキシウム	大日本住友製薬 (株)	アバプロ
(株) ジェイ・エム・エス		興和 (株)	リバロ
大塚製薬 (株)	ムコスタ	大塚製薬工場 (株)	エルネオパ
塩野義製薬 (株)	オキファスト	シーメンス・ジャパン (株)	Biograph mMR
大鵬薬品工業 (株)	アロキシ	武田薬品工業 (株)	アジルバ
田辺三菱製薬 (株)	レミケード	(株) ツムラ	六君子湯
(株) ヤクルト本社	カンプト 他		

(ABC 順)

編集委員会

編集長：並 木 温

編集委員：金子弘真 佐地勉 杉山篤

周郷延雄 高橋寛 高橋啓

津熊久幸 瓜田純久 (ABC 順)

編集後記

今月の原著論文は数少ない移植医療の論文だ。このでの論文は Lancet 誌によく見られる。「特集：Obama 再選で米国の医療経済はどうなるか？」も同じだ。

最近の meta analysis や systematic review により、治療法の相対比較、費用対効果、長期予後も再考されるようになり、いかにわれわれが、迷信にも似た、または Bias により漫然と行ってきた診療が多かったのか、実は危険か、無意味か…など後悔することもある。

われわれが接しているサイエンスにはほとんどエビデンスレベルがある。臨床医の最も陥りやすいものが、レベル 6 の“Experts による consensus”であろう。最も“信頼のおける生の意見”と勘違いしていることが多いのではないだろうか。“統計学的手法よりまず実地専門家の意見だ”…と思いつけるヒトも多いのではないか。しかしこれはグレードで言えば C (言い切れる根拠がない) である。

症例報告は“たった 1 例の貴重なエビデンス”であり real world の“まぎれもない証拠”であるが、昨今は“会議録”として葬られてしまう。貴重な経験は、統計学的考察の範囲外とされている。95% 以外のまれな症例さえも治せるのが本当の expert だろう。最近では impact factor (IF) の高い雑誌ほど、“症例報告の掲載”ができなくなってきて残念だ。若い人に症例報告を読む“心構え”ができていないと困る。

果たして、1 例の症例報告もしたことがない、突っ込んだ考案もできない医師が、何十例かの case study や基礎研

究の論文が書けるのだろうか？ 50 例の集計は、1 例の経験が 50 回集まったものである。Randomized controlled trial (RCT) や臨床試験を計画し、エビデンスレベルや quality の grade が高い論文が簡単に書ける (計画が立てられる) のだろうか？ そんなに症例報告を蔑ろ (ないがしろ) にして、実臨床の場で患者に適切で気配りのある care ができるのだろうか？ Reviewer の指摘に正しく答えたことのないヒトの discussion には客観性があるのか？ 答えは絶対 No である。できる筈がない、無理だろう。逆に IF の高い論文を書ける医師が、必ずしも患者に喜ばれ心暖くてきめ細かな診療ができるかは、疑問というより、私の数少ない経験からでは、やはりこれも No であろう。症例報告から始まり、多数例のまとめ、後ろ向き検討、前向き臨床試験や統計学的妥当性の証明、その後の非臨床、前臨床の研究へと進んでいくのが理想だ。他人の論文の査読の経験も必要だし、学位論文の審査委員もいい経験だろう。

もうバランスのとれた、研究心旺盛で idea が次々と浮かんでくる、切れ味良く身体も頭も良く回る super 臨床医は育たない時代なのかな？

(佐地 勉)

東邦医学会雑誌 第 60 巻 第 2 号

平成 25 年 3 月 1 日発行

編集兼 並 木 温
発行人〒143-8540 東京都大田区大森西 5 丁目 21 番 16 号
東邦大学医学メディアセンター内

東邦大学医学会

(振替口座 00190-6-95793)

tel. 03-3762-4151 ex. 2465/fax. 03-3762-5077

e-mail: igakukai@med.toho-u.ac.jp

http://tms.med.toho-u.ac.jp

東京都北区西ヶ原 3-46-10

株式会社 杏林舎

訂正

本誌 第 60 巻第 1 号 15-23 頁

伊藤慎也論文

「Factorial structure for the brief Job Stress Questionnaire in Japanese health care workers」

以下のとおり訂正致します。

22 頁 右段下から 6 行目

誤：Statistical data analysis: Dos and DON's (2nd ed.)

↓

正：Statistical data analysis: DOs and DON'Ts (2nd ed.)